

図書館のイチオシ

ティーンズコーナー
夜露死苦SP!!



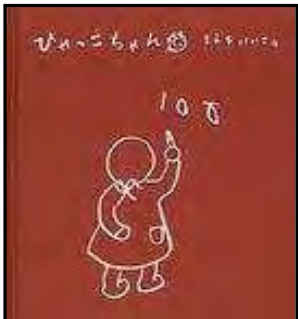
時間と学費をムダにしない大学選び 2009 年度版《光文社》石渡嶺司・山内太地 / 著

おおっ！なんと画期的な本ではないか。自分の将来を考えた上での大学選びをしようという提案だ。様々な業界をchap_1～18に分けて、各業界の主要大学の就職者数のランキングなどの基礎データから、就職した後の年収、学部選びのアドバイス、ウラ話、大学受験のモデルプラン、触れておきたい業界参考資料（中にはマンガも紹介されてるヨ！）などきめ細かいアドバイスがびっしり!!そんなに堅苦しい本じゃないから、進路に迷ったときにぱらっとめくってみては？！受けたい大学すらまだわからないという、キミにぴったり。

【377.2/シ/09】



ひゃっこちゃん《スカイフィッシュ・グラフィックス》まえをけいこ / 著



かわいらしい女の子「ひゃっこちゃん」の日常。よ～く見るとヘアスタイルも100。ちょっぴり疲れたときに、ふんわりした挿し絵とおはなしでリラックス。絵本『からすのぱんやさん』や『バムとケロシリーズ』などちまちました絵が大好きだった人には特にオススメ。雑貨好きのティーンズにはもっともっておススメ。他にも『たんぽぽちゃんとすみれちゃん』、『Brancot (ブランコ)』...などなどおしやれでかわいい絵本が入っています。ティーンズコーナーの絵本も要checkだっ!!

【E/ヒ】

ボウズSTYLE '08夏号《宝島社》

ボウズスタイルって、1種類じゃないのおおっ?!シンプルボウズ、ワイルドボウズ、アシメボウズ...10種類ものボウズスタイルを紹介。それだけじゃなく、ボウズに合う帽子やサングラスなどの小物、ファッション、さらには面白いボウズエピソードまで載っています。「ボウズの数だけ、ボウズの人生がある(本文より)」そう。奥が深い...

【H595.4/ホ/08-2】



シンデレラの魔法が消えぬ間に《徳間書店》吉野匠 / 著



本をウラ返すと、「テーマは愛だ」とか「純粋で、儚く、あたたかい恋物語。」なんて書いてある。学園恋愛モノかと思って、読んでみたら間違いだっ(°;´)。平凡な男子高生の主人公を囲む、『フワ-オ'ライフ』(よしながふみ / 著・新書館 / 刊、コミックなので図書館にはないヨ)に出てくる「真島」を思わせるような美形のオタク男子高生や謎の同級生美少女。その美少女の正体を知りたくてついつい最後まで読んでしまう作品だっ!最後まで読むとなぜ「シンデレラの魔法」なのかもやっと分かる。タイトルだけ見ていると、女の子向けの小説かと思っちゃうけど実は、少年コミックにありそうなストーリー。涙のラストかと思いきや、ホッと優しい気持ちになれる。スキな子ができたばかりのキミにおススメっ♪(*'-^)-。

【F913.6/ヨシ】

本選びたい放題



J・Pのイチオシ

読書するなら、雨でも
平気



anmitsu book 《フリースタイル》『anmitsu』編集部 / 著

『anmitsu』ってあの「あんみつ」? 甘いモノの本?...いいえ。これは、関東圏で配られているフリーペーパーを1冊の本にまとめたものナンダ。フリーペーパー、この辺だと『chao (ちゃお)』や『リバ!』がメジャーだよ。でもこの『anmitsu』、何がスゴイって高校生が作っているノダ!! だから、特集も「うわばき大好き」や「ただのノートじゃつまらない!」など身近。うわばきなんて、すっごい可愛いアレンジが紹介されていて、カンドーもの。あんみつ調査隊では、プリンやポテト、メロンパンのランキングもあり、マジお役立ちです。個人的には「山田真由子の味のある高校生になりたい!」のコーナーがスキだ! 中身はフルカラーでえすっ

【J019/ヨ】



「ユアボイス」《理論社》新津きよみ / 著

中学校の美術教師岡里菜の最愛の恋人は、殺された。犯人が、いまだに捕まらないでいたのも恋人だった伸に執着する理由の一つだったが、里菜はずっと最愛の恋人を忘れられないでいた。ある日の夜、コンビニで伸にそっくりの声を持つ中学生、五十嵐薫に出会う。薫は岡里菜が赴任した先の中学校の生徒だった。特殊な能力を持つ薫は、里菜の恋人を失った殺人事件をはさんで教師である里菜と深く関わりあうことになる。さらにイケメン薫にひそかに想いを寄せる従妹の珠緒や薫の同級生の加藤静香が絡み合い、最後まで目が離せない。はたして事件は解決されるのか?! 読者を一気に引き込むスピード感とスリルあふれる文章がすごい!

【J913/ニ】



解剖・観察・飼育大事典《星の輪会》内山裕之・佐名川洋之 / 編著

今の中・高生は、生物の授業で解剖なんてしないんだよね~。昔の学生はダレもが皆フナやらカエルやらを解剖したもんです。そんな解剖実験の写真や図(フジツボやカイコの解剖写真(! 先見れちゃったりする)、イソギンチャクやトカゲの飼育法なんかもこの本に載ってマス。トカゲって身近な生き物だけど、飼いかたって案外知らないでしょ? 実験・観察好きには、たまらない1冊かも。

【J460/カ】

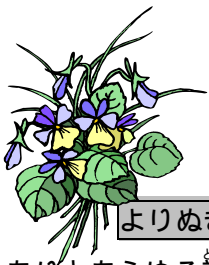


リリーの籠《光文社》豊島ミホ / 著

う~ん、甘酸っぱい。女子高が舞台の短編集。女の子に、おススメです。でも女子高にいる女子の気持ちをトコトン知りたい男子とかいたら、読んでみるのもイイかも。10代くらいの女の子って(特に女子高のような環境だと)、男女関係なく人を好きになったりするよね。人間的にスキになるってことカナ? お友達同士、女の子同士でヤキモチ焼いちゃうのもアリなんだ。そんな女の子たちの微妙な、でも正直な気持ちの描き方が、絶妙な作品。共感する人も結構多いと思うよ。

【F913.6/トシ】 2F文学の部屋でどうぞ。

ピッチピッチ、チャップチャップ



J・Pのイチオシ

祝！進学・進級。

よりぬき読書相談室 みだれ打ち快答編《本の雑誌社》本の雑誌編集部 / 編



ありとあらゆる読書に関する相談が、載ってマス。ジャンル別Q&Aでは、ミステリー、SF・ファンタジー、恋愛・青春小説...などがあり、テーマ別Q&Aでは家族、旅先で読みたい本...など細かく分けられているヨ。自次の相談の部分を読んでいるだけでも、他人の読書を覗き見る感じがしてオモシロイ！例えば、「女性にモテない主人公を描いたおすすめは？」、「チビりそうなくらい怖い本は？」など、へえ～、どんな本紹介するの？って興味を引かれる相談がいっぱい この本はシリーズで、全部で4冊あるよん。 【J019/ヨ】

「ぼくの父さんは、自殺した。」《そうえん社》今西乃子 / 著



「いじめと自殺というものについてみんなどう思うか、それぞれ意見を述べてみないか」担任の言葉に、クラスメイトが「自殺はよくない」「自殺は身勝手な死」「弱いものがするもの」と、次々否定的に答えた(本文より)。現在日本で自殺をする人は年間約3万人にもものぼる。いじめを受けて自殺をした人の話は、ニュースにも取り上げられるから多少は聞くけれど、自分の親が自殺で亡くなったという人の話ってあまり聞かない。父親を救えたかもしれないのにできなかった自分を責めたり、一番自殺に偏見を抱いているくせにそれを認めてしまうと、父親のすべてを否定しているようでしたたまれなかったり、苦しい気持ちを抱えている。そんな1人の男子高校生が、どのようにして1歩前に踏み出せたのかがこの本を読むとわかる。写真、実名入り。 【J913/オ】

あのことろ、先生がいた。《理論社》伊藤比呂美 / 著



小学校で、中学校で...今までの先生に出会ってきたよね。大スキな先生、逆にキライな先生、別にどっちでもないけれどミョ～に印象に残ったあのセンセイ...。キミの胸の中にもいろんな先生の顔が思い浮かんでくるハズ。著者の伊藤比呂美さんは、今までに出会ってきた良くも悪くも印象の強い先生について紹介してくれました。先生のことを「変人」と言ったり、「直立カバ」、「オメガ」、「チリババ」、つばを飛ばして授業に熱中する「椿姫」(またの名を「カメちゃん」)などなどオモシロ先生自白押し!!でも、それよりなによりオモシロいのは、伊藤比呂美さんが本当に普通の小学生であり、中学生であり、高校生だったということ。先生の言動にいろんな反応をしているその当時のヒロミちゃんの考え方や行動が、共感できるし笑えるしGOODだ！ 【J914/イ】

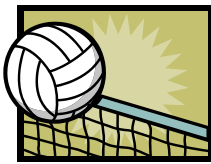


カナスピカ《講談社》秋田禎信 / 著



宇宙人がつくった人工衛星に恋する女子中学生のハナシって聞くと「ええッ!Σ(°д°)」って思うよね。そんなことあり得ない話なんだけど、主人公の加奈の思うことや行動はとても普通。普通に恋したらこんな気持ちになるよね、うんうんって思いつきながら読めちゃうよ。カナスピカは人工衛星なんだけど、自在に変化できて加奈たち人間の前では、イケメンなのだ。(これ、先に言っとかないと「どーやったら人工衛星だかUFOだかみたいなものに恋できるんだよッ!」って思うよね。)隕石にぶつかって地球上に落ちてきたカナスピカを、加奈は宇宙に帰すために協力するものの、ずっと一緒にいたい気持ちもあって複雑...。何しろ相手は得体の知れない人工衛星、区役所の職員も巻き込んで大騒ぎになっちゃうのだ。 【F913.6/アキ】 2F文学の部屋でどうぞ。

前向きで、行こッ



J・Pのイチオシ I LOVE BOOKS!マジで?!

おっぱいバレー 《日本経済新聞出版社》 泉美智子・河原和之 / 著

ものすごいインパクトのあるタイトル、そして表紙。まるで、映画かドラマのノベライズかと思っちゃうけど実はそうじゃない。でも、実際にあった話を元に書かれた小説なんだってΣ(° °;)。舞台は静岡県の浜松市(本当の話は、浜松市とは無関係)で、著者が大学時代に住んでいたところ。こんなふざけた本...とはじめは思うかもしれないけれど、めちゃくちゃ純粋な青春小説なんだなあ。女子にモテず、キモ部と呼ばれるバレー部員だったけど、試合に勝ったら顧問の美人女教師のおっぱいが見られるという約束でスイッチが入る。さて、そんな弱小バレー部の試合の結果は...?!今年『おっぱいバレー・リターンズ(仮題)』を刊行予定とか。それも早く読みたい...。



【J913/ミ】

オチケン! 《理論社》 大倉崇裕 / 編著



「オチケン」ってあの落研? そう、落語研究会の略称だよ。落語と言えば、NHK朝の連ドラ「ちりとてちん」も主人公が落語家を目指す内容だったヨネ。(...って知らないか。)ところでこの本、こんな表紙で、こんなタイトルでなんとミステリー。主人公の名前は越智健一(コッテコテやがな)。天才的な落語の才能を持つ、おっとりノンビリマイペースな先輩の岸と、落語とはおよそ縁もないような爽やかなイケメンだが押しの強い先輩中村に振り回されっぱなしの主人公、合わせて3人の落研部員が大学内で起こる様々な事件を解決!!ミステリー初心者でもすんなり読めるヨ!

【J913/オ】

ついていいたら、だまされる 《理論社》 多田文明 / 著

面白いタイトルだよ。でもさらに面白いことに、著者の多田文明さんは「ありとあらゆるあやしい人たちの誘いについてゆき、だまされる」という経験をした人なんだ。キャッチセールス、デート商法、出会い系サイト...1度くらいは聞いたことがある言葉だと思うけれど、本当に関わったことがある人はあまりいないと思う。「僕は絶対だまされたりしない」と、思っているも知らず知らずのうちに引っかかってしまうみたいだよ!この本で、いろいろなパターンを知って自分をまもろう。ってゆーか、ついていいたらどーなるのか、ホントはキョーミしんしんだっちゅーの!!



【J365/ツ】

高校デビュー 《集英社コバルト文庫》 倉本由布 / 著 河原和音 / 原作



実は、この著者の倉本由布さんこそが高校デビューなんだな。いや、正しくは高校生デビューか?この『高校デビュー』と同じくコバルト文庫で『恋は嵐いる不思議い』を高校3年生の秋(昭和60年)に出版しています。当時中学生だった私は、この小説にハマりくらもちょうせつしゅっぱんすべよあさきました。さて、大人になった私は久々にこの本を手にするワケです。「大人なんですから、夢中になんかなりませんよ、フン。」と思いつつ...やっぱハマった(*°-°)。原作は「別冊マーガレット」に連載中の漫画。好感の持てる一途で素直で爽やかな主人公長嶋晴菜を応援せずにはいられなくなる、恋愛小説だよ。かわいらしくてモテる女の子とはちょっと違う晴菜と自分とをついつい重ねてしまい、ぐいぐい引き込まれていきます。シリーズで他にも2冊アリ。

【J913/ク】

今日のデートの相手は...本です。